

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果(平成24年度)の概要

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(5/7)

	評価区分(*1)	総合評価 (IとIIの 平均値に IIIを加味)	I 目標に 向けた取 組の進捗 に関する 評価	II 支援措置の 活用と地域独 自の取組の状 況	III 現地調 査時の指 摘事項及 び対応状 況等(*2)	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			進捗度 ・木材生 産量 108%	規制の特例 等 ・地域活性化 総合特別区 域通訳案内 士育成等事 業 等	現地調査時の指摘事項及び対応状況等(*2)	
「森里海連環 高津川流域 ふるさと構想」特区(島根県 益田地区)	準	B 3.8	B 3.9	B 4.2	-0.25	<p>・クラインガルテン予定地の水源汚染問題や、少雨による鮎流下の減少など、想定外の問題や外的要因によって事業の進捗の遅れがあること(※1)には配慮が必要。他方で、自伐林家による林地残材搬出や住民による環境活動など、地域の主体的な取組を成果としてアピールするような評価指標の工夫(※2)も必要ではないか。</p> <p>・数値目標の設定の仕方などに難点があると見受けられ、また、より深い分析が必要ではないかと思われる項目が散見される。(※3)</p> <p>※1: 流下アユ仔魚数(H24年度目標)38億尾、(実績)8.6億尾、進捗度22%</p> <p>※2: 現在の評価指標は、 (1)路網整備と計画的施業の推進(木材生産量、製品生産量) (2)地域資源を活用した農村定住・交流促進(交流人口) (3)高津川流域の水質浄化及び川と海の水産資源の維持・増殖 (BOD平均値、流下アユ仔魚数)</p> <p>※3: (例1)「農村定住・交流促進」について、平成24年度から27年度までの4年間の交流人口の目標値が70人で、平成28年度に一挙に600人になっている。施設整備との関係があるという背景は理解できるが、施設完成直後に一挙に、これだけの増加が可能になると思われず、多様な形での交流人口増加が定住・地域居住促進にもつながると考えられる。現に、24年度の実績値は148%の達成率となっており、数値と説明の整合性が欠如していると思われる。 (例2)「水質浄化」の代替指標として啓発活動の回数としているが、啓発活動の広まりを数値的に捉えることはできないか。例えば、啓発活動の企画への参加人数、廃食油の回収量などといった数値で示すことを工夫できないか。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。 *2)「III」については、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。